

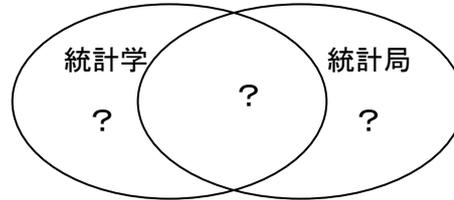
社会における統計の役割

— 統計学と統計局の歴史から考える —

0 「統計」学と「統計」局の関係

- ・ 統計局は、統計学の知見を活用して、広く社会に統計情報を提供する行政機関。
- ・ 統計学は、自然現象、社会事象などを数理的に把握・分析するための学問。

——> 共通部分と相違部分は？



1 今日の「統計」の三つの源流

(1) 国の実態をとらえるための「統計」

- ・ ローマ時代にさかのぼる「Census」 — 聖書にもセンサスの記載あり
皇帝アウグストゥスによるセンサス 28 B.C. 8 B.C. A.D. 14
- ・ ウィリアム・ペティ「政治算術 (Political Arithmetick)」(1690年)
イギリスの人口、経済の実態をオランダ、フランスと定量的に比較
国政に役立てるようイギリス国王に献上
- ・ 近代的なセンサスの実施 (注 当時は「Census」との名称で呼ばれていなかった。)
デンマーク 1769年、アメリカ 1790年、オランダ 1795年、イギリス 1801年など



アウグストゥス
(63 B. C. - A. D. 14)

(2) 大量の事象をとらえるための「統計」

- ・ ジョン・グラント「死亡表における自然のおよび政治的諸観察」(1662年)
教会に保存された死亡記録から死亡率を分析。現在の人口統計学の源流。
- ・ エドモンド・ハレー「人間の死亡の度合の推計」に関する論文 (1693年)
平均寿命、生命表を推計し、生命保険の基礎を築いた。



John Graunt (1620-74)

(3) 確率的事象をとらえるための「統計」

- ・ 数学者パスカルとフェルマーの交換書簡 (1654年頃)
サイコロ賭博の問題を基に確率論の基礎を確立
——> 推定、検定、標本理論などに発展



Blaise Pascal (1623-62)

(4) 自然現象、社会事象いずれも数量的にとらえるための「統計」

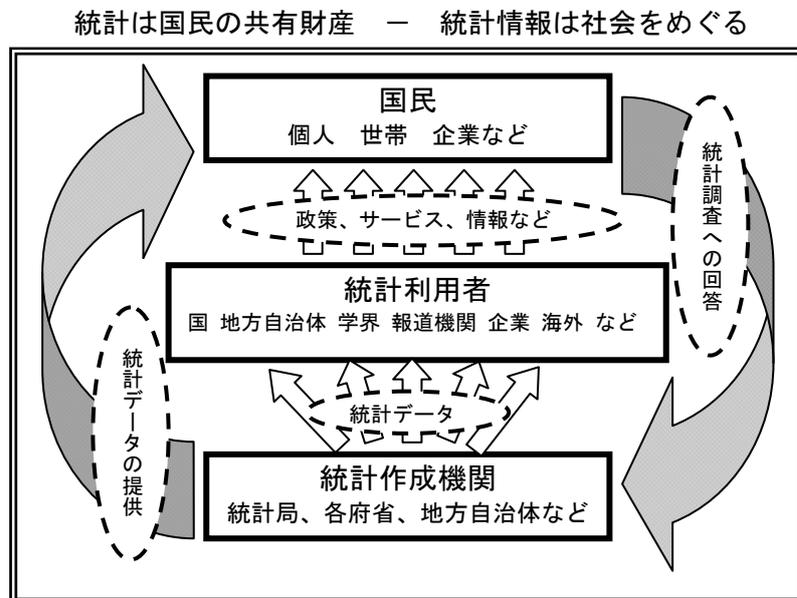
- ・ アドルフ・ケトラー「人間とその能力の発展について—社会物理学の試み」(1835年)
センサスなど社会統計を科学的に作成・分析するため確率論を導入
統計の国際比較向上のため国際統計会議 (International Statistical Congress) の開催を主導

◎ 統計の起源は「統計 (Statistics)」の言葉の成立よりも古い

◎ State ——> Statistik / Statistics ——> 統計 (「統計」の語源は「国」)

2 行政における統計の位置づけ

- ・1800年代、近代国家の運営には統計が必要と認識され、世界の国々で政府に「統計局」を設置。
- ・日本では、明治4年(1872年)に大蔵省統計司(→統計寮)と太政官政表課(→内閣統計局)を設置。
- ・大正9年(1920年)に第1回国勢調査を実施。
- ・昭和22年に「統計法」を制定。
(戦前の情報統制を反省に立ち、「統計の真実性」を確保することを目的。)
- ・平成19年に統計法を全面改正、平成21年4月から新統計法の施行。
(政府機関の作成する統計を「公的統計」と規定し、その整備についての仕組みを定めた法律。)
統計法の第1条によれば・・・
 - ・「公的統計」は国民にとって合理的な意思決定を行うための基盤となる重要な情報。
 - ・「公的統計」の作成及び提供に関し基本となる事項を定め、公的統計の体系的かつ効率的な整備及びその有用性の確保を図り、もって国民経済の健全な発展及び国民生活の向上に寄与。総務省統計局を始め各省の統計部局で「公的統計」を作成し、広く社会に提供。



3 統計に対する国民の理解の必要性

- ・統計は、行政機関が国民の情報を集めることにより作成。
- ・集められた情報は、統計として集計され、説明・分析を付して国民に還元。
——>信頼できる統計を作成するには、統計の意義について国民の理解を得ることが必要。
統計を正しく利用するには、国民が統計の使い方を正しく理解することが必要。
- ・統計リテラシーは社会生活に欠かせない基礎能力。
 - 統計を正しく解釈する理解力
 - よい統計と悪い統計を見分ける目
 - 統計の誤用を見抜く目
 - 公式・計算式の意味・考え方の理解
 - 必要なデータを探し、集める力 など